

時事への関心育む環境作りが重要

中学入試や公立中高一貫校の適性検査では、多くの学校が時事問題を出題します。なぜ出題されるのか、どのように対策すればよいのか。大手進学塾サピックスの広野雅明・教育事業本部長に、時事を学ぶ意義について聞きました。

中学入試では、時事問題がよく出題されます。どの中学校も子どもが社会の一員として、現代のニュースに関心を持っているかどうかを気にされています。

最近の入試はどの教科でも、単なる知識や解法の暗記より考える力が重視されており、時事問題も同様です。

例えば、麻布中や武蔵中の社会などでは長めの文章

サピックス教育事業本部長

広野雅明さん



を読ませ、時事的なもので地理・歴史・公民の内容まで幅広く問います。知識をバラバラに暗記しただけでは対応できず、知識をつなげたものとして理解していないと答えにたどり着けません。

問題全体を通して、または大問ごとにテーマを設け、それに沿った設問を解き切ること、子どもたちに何かを気付かせる。そういう構成の問題が増えていきます。小手先の対策ではなく、考える力を伸ばさないと対処できません。

今年の中学入試では、やはり東京五輪・パラリンピックが重要な話題の一つです。コロナ禍も引き続き、様々な形で出題されるでしょう。昨年の岸田政権の誕生は、問題作成に間に合いませんが、選挙に関する問題は避けては通れません。しかし、こうしたニュースは、多くの子どもにとってそれほど関心が高い話題ではないでしょう。テレビでニュース番組をつけたからといって、関心を持つわけではありません。

親からうまく問いかけ、関心を持たせることが非常に大事です。ちょっとした疑問を家族で調べたり、ときには子どもにインターネッで調べさせたりしてもいいと思います。子どもが素朴な疑問を言い出しやすい雰囲気と、その疑問に対して親が真剣に応じる姿勢が重要です。

サピックスでは、家庭学習用の副教材として、塾生に朝日新聞社の「今解き教室」を勧めています。この教材は、最新の報道写真から古い白黒写真まで、新聞社ならではの豊富な写真が使われています。言葉だけではなく、写真があることで、子どもたちを引きつけます。毎年、新しく作り直していることにも、大きな価値があると思います。

こうした時事の教材は、国語・算数・理科・社会に対して、いわばプラスα。弱点の補強ではなく、得意なところをより伸ばすために使うのがよいでしょう。

教材に取り組む時間が少ないという声も聞きますが、隅から隅まで完璧にやろうと考えると、空き時間を見つけて取り組むことが大事です。記事を読み、報道写真を見ていくだけでも非常に力になります。1冊の中にいろんな記事があるわけですから、自分の一番興味のあるところを優先的にやってみてはどうでしょうか。